

平成 28 年度「提案公募型事業」申請書類(2)  
< 受 託 申 請 書 >

ふりがな 団体名	かるしうむかんぱに カルシウムカンパニー						
ふりがな 代表者名	よしだまみ 吉田茉美						
募集期間 (該当を○で囲む)	第1期 / 第2期						
事業の分野・テーマ (該当に●印・複数可)		【 ○ 】 心地よく安心な港まちで暮らす					公募要領の 「2委託対象 事業」を参照
	○	【 △ 】 魅力的でにぎやかな港まちに集う					
		【 □ 】 みんなと港まちを創る					
提案事業名	遊びの創庫「アジト 2016」						
希望金額=A ※5ページ・6ページの Aと同額を記入	3	2	9,	1	0	0	円
期間 (準備～事業終了日)	平成 28 年 7 月 21 日 ～ 平成 28 年 9 月 30 日						

【提案事業の計画】 ※ 簡潔かつ具体的に記入してください。

(1) 事業の目的・見込まれる成果

上記で選択した事業の分野・テーマ(○・△・□)について、具体的にどのような目的を持ち、どのような成果を見込む事業であるか、詳細に記入。

夏休みを利用し、非日常的で創造的なプログラムと様々な遊びを子どもたちと実践し、ものを創り出す楽しさや、皆と協力して何かをなすとげるすばらしい体験をしてもらうとともに、世代間(子ども・大学生・保護者・大人)を超えた人々の交流の場を創り出すことで、港まちを盛り上げることを目的とする。アート・デザインを手段としてコミュニケーションをはかることで、子どもたちの多様性を否定せずに、それぞれが持つ創造性(表現力・発想力・発見力)を豊かにすることができる。普段子どもたちが集う日常の風景を、アート・デザインを取り入れた非日常的で創造的なプログラムを通して、子どもたちが新しい価値観を得て、日常の中に新しさを見出してもらうことを期待する。未来を創り出していく子どもたちの創造力をアジトのプログラムで引き出すことで、これからの港まちをより魅力的でにぎやかなものにできると考える。

(2) 事業の概要

子ども(主に小学生)、その保護者を対象に参加型のアート・デザイン・遊びの複合プログラム(レクリエーションやワークショップ)を5日間実施する。後半の2日間は、本プロジェクト内で展開してきたテーマに基づいて子どもたちが考案したオリジナルの遊びの屋台を立て、途中で全体ゲームを行いながら「祭り形式」をとった短期イベント「アジト祭り」として実施する。

## (3) 事業の具体的な内容と方法〔内容、実施日・実施場所、想定参加者等〕

## 1. 内容

開始から2日間にわたってテーマに基づいたプログラムを1日に1つ、もしくは2つ実施する。今年「宇宙」というテーマを設定する。2016年6月に宇宙へ飛び立つ日本人宇宙飛行士がいるというニュースから、科学的な事象についての知識と探究心を持ってもらうことからはじまりプログラムを通じて、子どもたちが独自に持っている「宇宙」とも呼べるようなエネルギーを、ものを作ったり身体を動かす活動の中で自分なりに表現する方法を見つけてもらう。4日目・5日目は子どもたちが自分自身の基地(屋台)を考え、自ら材料を集めて動いたり作ったりする中で、自分の手で基地を作り上げる満足感を得てもらう「アジト祭り」として実施する。3日目は「アジト祭り」の準備期間として設ける。

実施するプログラムは以下の2つに分類される。

- a/アート・デザインを遊びに変換したプログラム
- b/既存の遊びにアート・デザインを付加させたプログラム

## &lt;前半2日間&gt;

## プログラムの一例

- ・手作りプラネタリウム:半球状のドーム暗室を設計し、手作りの投影機で星空を天井に映す。
- ・星を守るリレー:2人1組で腕を組み、地球や月などに見立てたボールを腕に挟んでリレーを行う。

## &lt;後半2日間&gt;

アジト祭りは、子どもたち自身が2日間にわたってブースを設営・運営するプログラム。子どもたちが個人やグループでそれぞれ自身のブースを持ち、「くじ屋さん」「的あてやさん」など、自分たちで準備してきたものやゲームを用いてお店を開く。そこではアジト内でのみ通用する擬似通貨を用いて、集団内のルールやしぐみ、通貨のしぐみなど社会性を楽しみながら身につけることができる。

## 2. 実施日・実施場所(屋外で実施する場合は、雨天時の対応も記入してください。)

実施日:8月21日(日)~8月27日(土)

拠点…空き店舗(未定)、プログラム…西築地学区内、特別短期プログラム…港橋広場公園

※雨天時は拠点にて雨天時プログラムを実施予定

## 3. 想定参加者人数・参加者層

対象年齢:就学前の幼児(年長)から小学生までの児童 および保護者  
中学生以上の参加も可能とする。

参加人数:1日につき20人程度を予定しているが特に上限は設けない。

## (4) 広報手段

案内チラシを名古屋市の小中学校や公共施設(児童館、公民館など)に設置させて頂く。  
 事前に許可を得た上で、西築地小学校前で子どもたちにチラシを配布する。  
 新聞・広報誌への掲載。  
 Twitter や Facebook などの SNS を用いた広報活動。  
 昨年度などの画像を掲載する際は、子どもたちの顔がわからないものを使用するか  
 モザイクをかけるなどして配慮する。

## (5) 事業のスケジュール(準備～実施～実施後の実施運営スケジュール)

実施期間:8月21日(日)～8月27日(土)

～8月20日(土)	企画の準備・会議
8月21日(日)	搬入
8月22日(月)・8月23日(火)	各プログラム実施
8月24日(水)	特別プログラム準備
8月25日(木)・8月26日(金)	特別プログラム実施
8月27日(土)	搬出・反省会

## 実施日のスケジュール

09:00 スタッフ集合	14:00 プログラム再開
09:45 参加受付	16:00 プログラム終了/片付け
10:00 プログラム実施	17:00 反省会
12:00 昼食休憩	次回プログラム確認・準備
午後のプログラム準備	

## (6) 事業の運営体制(スタッフの役割・人数や委託外注の活用等による運営体制、地域との連携など)

## 本事業における担当編成

代表:吉田 茉美  
 副代表:熊寄 智子、鏡 亮太  
 広報:田口 佳世子  
 会計:吉村 紀咲、漢那 由依  
 保健:溝渕 あかり

## 当日の運営体制

参加スタッフ 15 名のうちプログラム担当者 2 名が指揮を取り、  
 2 名が受付と保健を担当、残り 11 名が参加者約 2 人ずつをサポートする。  
 当日の手伝いとしてスタッフ数名を依頼する予定。

## 【事業のアピール】

次の各項目は審査基準と同じで、審査の判断材料となります。事業のアピールポイントを具体的に箇条書きで記入して下さい。(公募要領の12の審査基準の欄を参照してご記入ください。)

## (1) 実現可能性

過去11年間の活動記録、実績や反省を活かし事業の準備を4月から始めている。各大学の代表を中心に定期的に企画会議を重ね、企画内容や実施スケジュール、予算等の計画を綿密に立てている。より子どもたちにとって楽しい企画となるようスタッフで意見を出し合い、計画を進めている。これまで毎年イベントを実施しているため、企画の対象となる子どもたちにも「来年もまた参加するつもりである」「毎年楽しみにしている」という声を受けている。また、保護者、地域の住民への認知度・理解度も高く、町の理解を得て実施することができる。

## (2) 積算の妥当性

過去の積算と実業報告、活動の反省を踏まえて今回の事業運営に必要な費用を積算した。今年の企画にとって新たに何が必要であるか、不必要となるものはないか取り上げ、積算が妥当であるか確認を重ねた。また、再利用可能なものや身近な材料の見直しを重ね、なるべくあるものを利用するようにして予算を抑えるように努めた。

## (3) 公益性・社会貢献性

子どもたちの創造力・自立心・探求心が育まれるきっかけとなるようなプログラムを企画した。人目に触れやすい公園での活動で、挨拶や声かけなど住民同士の交流が生まれる。これからの社会を担っていく子どもたちが、ふるさとである港まちを好きになり、将来自分の育った町に還元したいと思えるような港まちとの繋がりを深められる。

## (4) テーマとの整合性

港まちを訪れた子どもやその保護者がプログラムに参加することにより、子どもたちが主体となって次の世代の担い手である彼ら継続的に港まちを活性化させるきっかけとなる。日常的な公園という遊び場が非日常的で創造的なプログラムを通して、子どもたちやその保護者同士の新たな発見と出会いの場となり、よりにぎやかな港まちづくりに貢献することができる。また夏休みという特殊な時間の流れの中で、幼稚園・保育園・小学校という垣根を越えた新しいコミュニティの交流が生まれ、継続的な人間関係やにぎわいが創り出されることを期待する。

## (5) 将来性

次世代の社会の担い手である子どもたちが地元のイベントに参加して、広場に集った仲間という繋がりを作ったり、自分たちが過ごしてきた町について知りすばらしい思い出を作ること、港まちを自分のふるさととして大切に想う気持ちが育まれる。プログラムに参加した子どもたちがやがて親の世代となったときに、その子どもに、そしてさらに次の世代へと、港まちを受け継ぎ繋いでいく事業であるといえる。

## (1) 支出の部

項目	金額(円)						
①外部講師謝金							0 円
②旅費交通費			8	5,	0	0	0 円
③会議費							0 円
④物品購入費		1	3	2,	5	0	0 円
⑤借上料			7	5,	0	0	0 円
⑥保険料			1	5,	0	0	0 円
⑦人件費							0 円
⑧委託外注費							0 円
⑨通信費				8,	0	0	0 円
⑩印刷製本費				8,	0	0	0 円
⑪事務費等				5,	6	0	0 円
<b>総支出合計=A</b> (港まちづくり協議会からの委託契約金額合計) (1ページのAと同額かご確認ください)	¥	3	2	9,	1	0	0 円

※ 参加費を徴収する事業の方は、参加費で充当される予定の品目は入れないでください。

※ 参加費で充当される予定の品目は、(様式1)の【徴収される参加費に相当する事業費】に計上してください。

## (2) 対象経費明細 ※対象経費明細のエクセル形式(様式2)の使用も可能です。

項目	経費の内訳 人数、単価、数量、回数等の明細を具体的に記入してください。
①外部講師謝金	
0 円	
②旅費交通費	1人1日1,000円×15人×5日=75,000円(活動日5日間) 1人1日1,000円×5人×2日=10,000円(搬入1日+搬出1日=計2日間)
8 5, 0 0 0 円	
③会議費	
0 円	
④物品購入費	プログラム費(材料) 20,000円 アジト祭り(プログラム費) 30,000円 Tシャツ 1200円×30人=36,000円 救急用具(補給) 4,000円 清涼飲料水(粉末) 700円×5=3,500円 スタッフ昼食代 500円×15人×5日=37,500円 氷 300円×5日間=1500円
1 3 2, 5 0 0 円	
⑤借上料	空き店舗借上げ料 50,000円 搬入・搬出用トラック 10,000円×2日=20,000円 照明セットレンタル代 5,000円×1セット=5,000円
7 5, 0 0 0 円	
⑥保険料	ボランティア活動保険 9,000円 ボランティア行事用保険 6,000円
1 5, 0 0 0 円	
⑦人件費	
0 円	
⑧委託外注費	
0 円	
⑨通信費	郵送費
8, 0 0 0 円	
⑩印刷製本費	チラシ A4 両面カラー印刷 1,000部=8,000円
8, 0 0 0 円	
⑪事務費等	プログラム費(文具等)
5, 6 0 0 円	
総支出合計=A	
3 2 9, 1 0 0 円	1ページ・5ページのAと同額かご確認ください

**申請書作成時の注意**

- 申請書作成時には、下のチェックリストを参考にして、所定の記入欄に不足なく記入・添付してください。
- パソコンで作成する場合は、申請書の様式の変更、ページの増設をしないで下さい。又、ページの欠落に注意してください。
- 手書きの場合は読みやすく記入してください。

点検欄	申請書項目・添付書類
<input type="radio"/>	1 「提案事業の計画」(1～3ページ)は具体的に事業の内容をイメージできる記載となっているか。
<input type="radio"/>	2 申請書に記入もれはないか。「別紙記入」としていないか。(全てのページ)
<input type="radio"/>	3 事業の収支計画(5・6・8ページ)は、「提案事業」についての収支計画であるか。(団体等の活動全体の収支計画を記入していないか)、計算違いはないか。希望金額(1ページ)と事業の収支計画に計上した金額が合致しているか。
<input type="radio"/>	4 期間に誤りはないか。所定の期間の活動か。(1ページ)
<input type="radio"/>	5 相談窓口を利用したか。(仮受付をしているか)

**提出書類チェック**

点検欄	種類
<input type="radio"/>	1 平成28年度「提案公募型事業」受託申請書類(1) <団体紹介書> ※片面印刷 ※捺印したかどうかご確認ください。
<input type="radio"/>	2 平成28年度「提案公募型事業」受託申請書類(2) <受託申請書> ※片面印刷
<input type="radio"/>	3 [対象経費明細のエクセル様式を使用する場合] 対象経費明細(様式2)
<input type="radio"/>	4 [団体の場合] 団体等の定款・会則・規約または寄附行為(財団法人の場合)の写し ※片面印刷
<input type="radio"/>	5 [参加費を徴収する事業の場合] 様式1 【徴収される参加費に相当する事業費】

(様式1)	参加費を徴収する事業の方は以下の項目も必ず記入し、ご提出ください。
-------	-----------------------------------

## 【徴収される参加費に相当する事業費】

## (1) 収入の部

徴収する参加費の内容	単価(円)	人数(人)	合計(円)
収入合計			

## (2) 支出の部

品目・内容	単価(円)	個数/人数	合計(円)
支出合計			

## 参加費を徴収する場合の注意点

- 参加費は、事業実施において必要な材料費等の実費分のみとします。参加費で充当される予定の支出品目については、委託金の中に含めて請求することはできませんので、ご注意ください。(充当する予定の支出項目については、上記「(2)支出の部」に記入してください。)
- 収入に関する証明書を精算時に提出していただきます。参加者リストを作成するなどして、人数等が客観的に把握できる資料を作成してください。